

山形県における熱中症による死傷災害発生状況

(出典：労働者死傷病報告(様式第23号)、気象庁気象データ(アメダス観測所山形))

職場における熱中症による死傷災害の概要（山形県）

山形県における熱中症による休業4日以上死傷者数は、増減を繰り返しながらも近年は顕著な増加傾向が認められる状況にあります。

令和2年の死傷者数は13人（6月・2人、8月・8人、9月・3人）で、前年比で1人増加しました。なお、熱中症による死亡災害は平成22年8月以降発生していませんが、過去5年間では平成29年を除き年間10人以上の死傷者が発生しています。



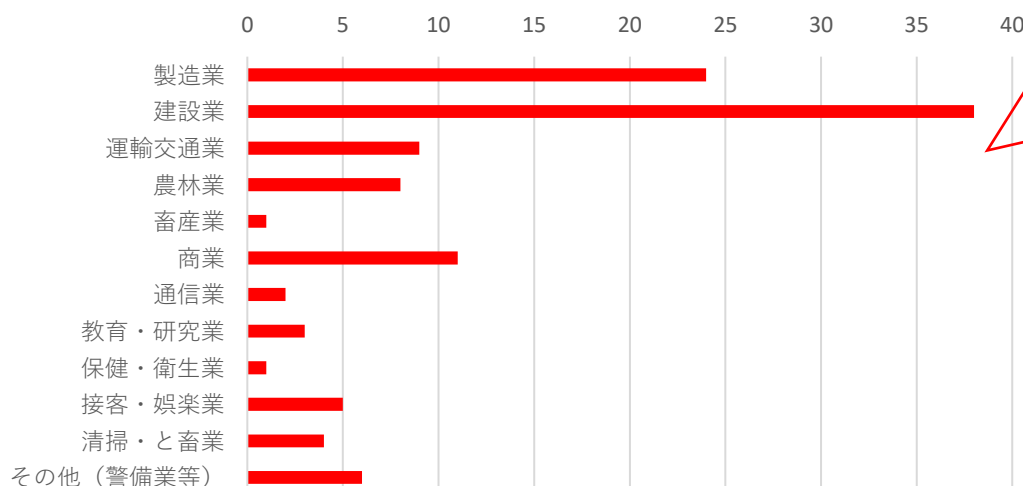
「**STOP！熱中症** クールワークキャンペーン」、 「職場における熱中症予防基本対策要綱」の徹底を！！

熱中症による休業4日以上死傷者数の推移（山形県）



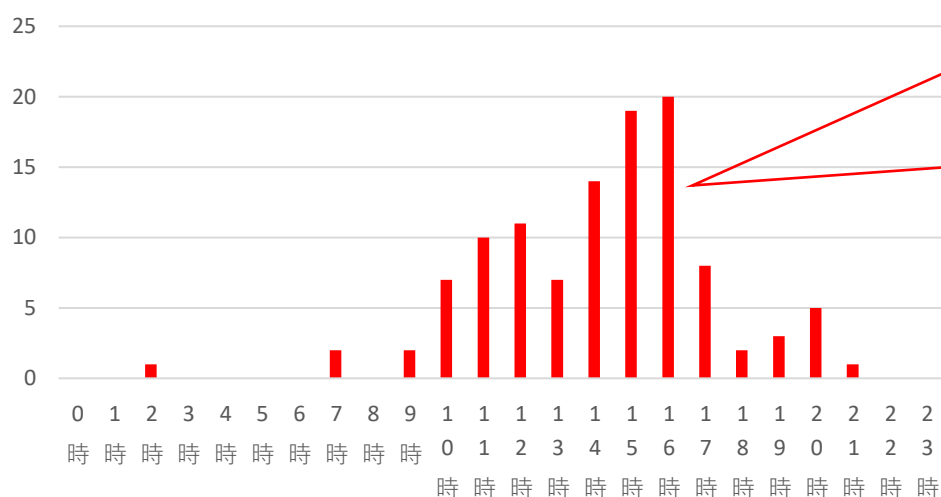
長期的に増加傾向が認められ、平成30年からは毎年10人以上が仕事上の熱中症により被災している状況にあります。

業種別発生状況（平成12年～令和2年）



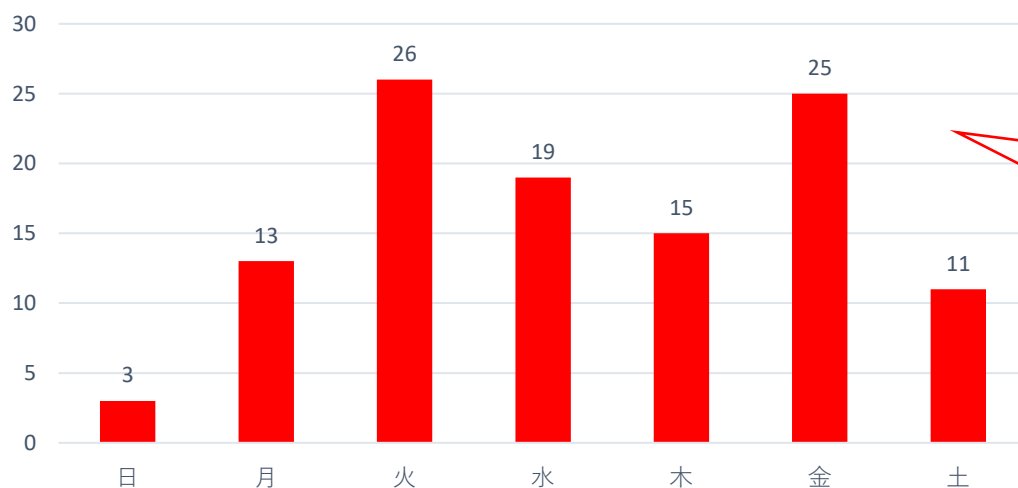
建設業と製造業の被災者が目立っているものの、他産業でも被災しており、屋外・屋内の区別なく、WBGT値（暑さ指数）の把握等に基づく各種対策の徹底が必要です。
※平成22年死亡災害は製造業において発生。

時間帯別発生状況（平成12年～令和2年）



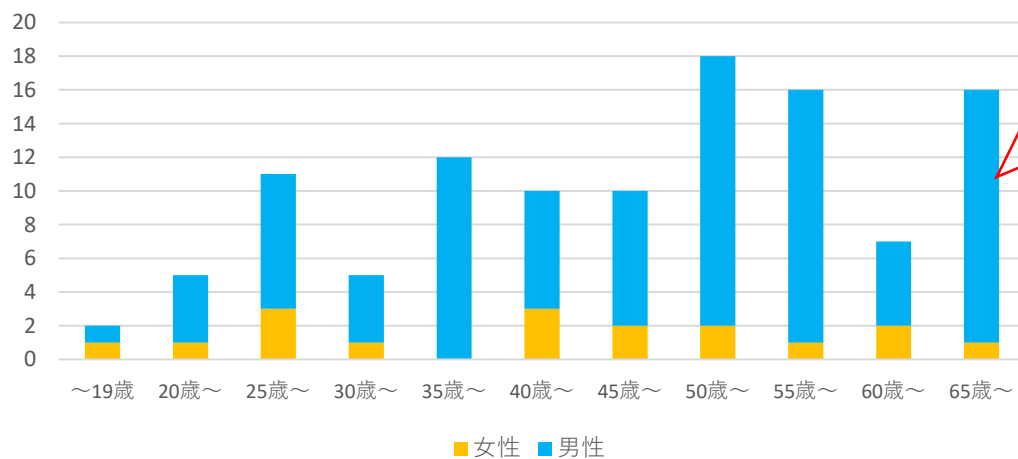
気温が上昇する午後の時間帯での被災が多く、特に14時～16時台の被災者が目立つ状況にあります。
職場巡視や休憩時間の確保、水分・塩分の摂取、体調確認等について、他の時間帯よりも留意する必要があります。

曜日別発生状況（平成12年～令和2年）



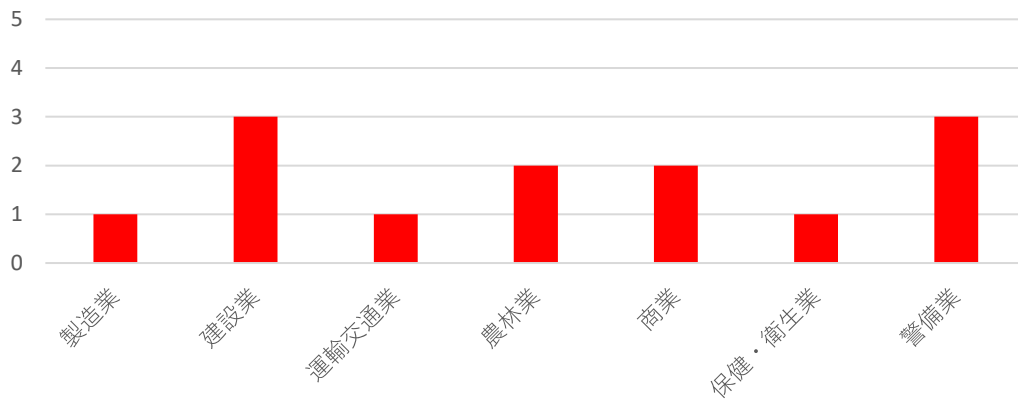
曜日別では、火曜日、金曜日、水曜日の順に多く発生しています。

年齢別発生状況（平成12年～令和2年）



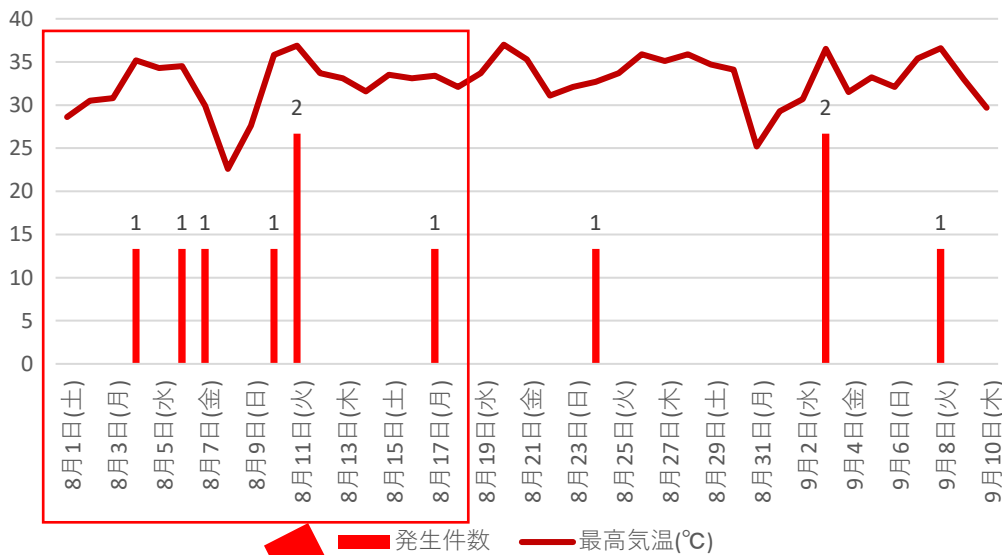
熱中症以外の労働災害と同様に高年齢労働者の被災は目立つものの、若い年齢層も相当数被災しています。
熱中症の発症と関連の高い糖尿病、高血圧、心疾患、腎不全等の疾患のある労働者は特に注意が必要です。

業種別発生状況（令和2年）



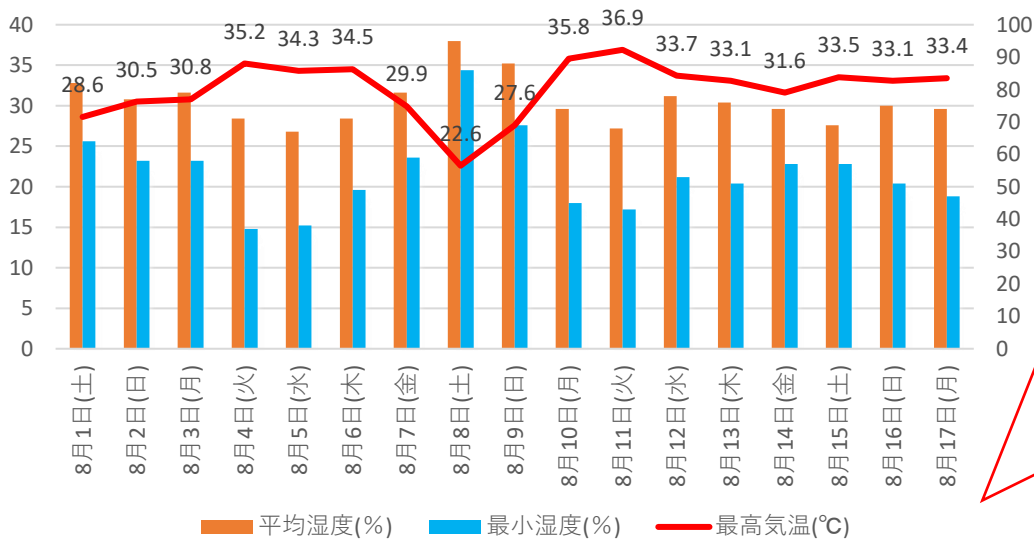
建設業と警備業の被災者数が多いものの、広く他産業においても発生している状況です。

山形市最高気温と熱中症による死傷災害発生状況（令和2年8月1日～9月10日）



8月～9月の災害発生状況に山形市の最高気温の変動を重ねてみると、急激な気温上昇と最高気温35℃以上となった日に高確率で発生しています。

8月1日～8月17日の山形市最高気温、湿度



各種気象情報の他、環境省、気象庁共同の「熱中症警戒アラート」等を活用し、熱中症の危険性を的確に早期把握することにより、当日の状況等に応じた適切な対応を図ることが重要です。



令和2年 熱中症による災害事例(休業4日以上)

(出典:労働者死傷病報告(様式第23号))

No.	発生月	発生時間帯	業種	災 害 発 生 状 況
1	6月	15-16	製造業	2階窓際で組立作業中、手のしびれを感じ、休憩後に意識が朦朧となり、手足に痙攣が発生した。
2	6月	15-16	農業	すいか畑でビニールシートを敷く作業を休憩を取りつつ朝から行っていたところ、気分が悪くなり救急搬送された。
3	8月	15-16	建設業	型枠工事の作業中に気分が悪くなった。
4	8月	7-8	商業	ユニットバスの納品設置作業を行い、帰宅後に頭痛と吐き気が少しあった。翌朝に症状が悪化した。
5	8月	12-13	建設業	暑い中、朝から現場でスプロケット等の交換作業を行っていたところ、腹痛等の症状を発症し、体温も39.9度あった。
6	8月	11-12	建設業	重機の誘導作業を行っていたところ、仰向けに倒れて痙攣した。
7	8月	12-13	警備業	工事の交通誘導業務に8時から従事していたが、突然めまいがして仰向けに倒れた。
8	8月	16-17	林業	伐倒作業に従事していたが、作業終了後、下山中に頭痛が発生した。
9	8月	15-16	保健・衛生業	エアコンのない廊下で3時間ほど支援を行っていたところ、頭痛が発生し、早退。帰宅直後から激しい嘔吐の症状となった。
10	8月	16-17	商業	箱詰め作業を行っていたところ、頭痛、発汗過多の症状を発症。翌日も症状が軽快しないため医療機関を受診。
11	9月	9-10	運輸交通業	運転業務中、ガソリンスタンドに立ち寄ったところで体調不良となり、痙攣や身体の硬直が発生して救急搬送された。
12	9月	16-17	警備業	警備作業中、休憩後立ち上がった時にふらつき、一時的に意識を失い転倒した。
13	9月	12-13	警備業	警備作業中に気分が悪くなり、痙攣としびれにより立てなくなった。